

普及活動検討会実施報告書

亙理農業改良普及センター

実施月日：令和6年2月6日

実施場所：亙理農業改良普及センター会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	令和5年度プロジェクト課題の実施状況について ① 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展 ② 名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の展開 ③ 次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上 ④ さつまいもの産地育成
2	令和6年度普及指導計画(案)について

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討課題1 (新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展)について	4.5	<ul style="list-style-type: none">・課題に対しての中長期的計画策定した点が良かったし、今後も組織として共通認識を持ち続ける事が肝心と考える。・中期計画の作成により組織力の強化が見えた。・改善すべきところが明確になり、良い活動だと思います。・土地利用型農業のモデル的に収量増が売上高確保に繋がり一定の成果を上げているものと思います。法人経営をしていく上で今後、経費縮減・労力軽減も重要となってくるものと思いますので、引き続きの支援に期待する。・新たな品目、技術導入の成果を、しっかり販売額(数字)で示せたのは評価する。・ぶどうの収量・販売高が前年を2倍上回った点は、これまでの技術定着支援があったものと思います。ばれいしょは、当初より耕作地の排水対策が課題となっていたものの、課題克服による着実な収量の増加となり、更なる耕作面積の増加に繋がっていることなど、ともに短期間で成果	<ul style="list-style-type: none">・対象の2法人構成員が、自ら課題や対策、将来ビジョンなどを検討して作成した中期計画について、その実現に向け、今後も支援してまいります。・新規品目の加工用ばれいしょ・ぶどう、新技術の水稻乾田直播栽培が、法人の経営の中に定着し、経営発展に繋がるよう関係機関等と連携し、引き続き技術支援してまいります。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>をあげられた点は高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の状況も年々改良されており、評価できるものとなっている。 ・課題の抽出と、これに対する取り組みと方向性の立案が良い点である。 ・馬鈴薯がカルビー社の原材料の栽培委託？を受注？出来た点が良い点であり、水稻の単収より収益性が向上した事が良い点である。 ・気象条件もあるが、排水対策で滞水状況を変えられたことで適期に適作業をでき「じゃがいも」の収量が上がり良かった。 	
<p>検討課題 2 （名取市下余田 2 期地区における農地整備を契機にした地域農業の展開）について</p>	<p>4.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定は良かった。 ・法人経営が今後の主力となると考えますので、良い活動だと思う。 ・近隣法人の視察、意見交換の効果は高く評価できる。 ・ほ場整備後の生産の方向性は、地域で確認をしてきていることから、具体的な生産体制について、安定的な農業経営の確保を含め、継続的に支援・指導を期待する。 ・当該地区のほ場整備推進体制の構築ができた点は、大きな一歩と認識しており、高収益作物の「えだまめ」による水田活用と安定栽培の支援を併せた計画策定となっている点も高く評価できる。今後とも関係機関一体となった新法人設立に向けた取組をお願いする。 ・ほ場整備事業全体説明会を開催し、その中で、新農業法人の法人化計画と併せて高収益作物の安定栽培の方向性が地権者・耕作者の方々と想いが一緒であれば大変良いと思う。しかし、令和 5 年の酷暑の関係かどうかは不明であるが枝豆がかなり不作であったことから、不安要素が残る。 ・今後の進め方になるが、えだまめ部会の担い手は 1 人だと厳しいのでさらに担い手を確保し、組織化するサポートをお願いする。 ・現実的に新たな法人の設立にあたって、水田だけで経営が成り立つか不安がある。「えだまめ」は機械化体系が確立され面積を増やしていくようようだが、価格（単価）が下がっている中でうまくいくか不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係機関やチーム員と情報を共有し、目標に向かって普及活動いたします。 ・対象地域で持続可能な農業経営が実現できるよう、地域の農業者が主体性を持って取り組めるよう関係機関と連携し、支援してまいります。 ・えだまめ部会の担い手は 1 人については、現在、家族労働で 4 人の労働力が確保されています。面積拡大においては機械化一貫体系にすることで省力化を図ろうと考えています。しかし、品種選定や出荷体制、市場との調整等につきましては、えだまめ部会の協力が必要であり、JA や部会の理解を得ながら進めてまいります。また、機械整備に当たりましては、市等と連携し補助事業活用等を検討してまいります。 ・新法人の設立準備として専門家等と連携し、経営シミュレーションの検討などを行いながら営農計画の策定等を支援してまいります。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討課題3 （次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上）について	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術向上は、日々の研鑽や年々の状況によって変わるものもあることから、生産者間交流、巡回指導は今後も継続的に行われるよう期待する。 ・参加者からグループワークを取り入れた点など高評価を受けており、良い活動だと思う。 ・夏の猛暑で産地の収量が厳しい中、関わった生産者で収量の成果が残せたのは評価する。 ・生産者同士、特に新規就農者のつながりの構築支援は、非常にありがたい。 ・環境制御技術による収穫量向上が見込める技術習得ができたことは大きな成果である。また、育苗管理の再構築（夜冷処理）による年内収穫の作業スケジュールを提案できた点が良かった。 ・新規いちご生産者として就農する方が増加している状況では課題設定は良かった。 ・抱える課題に対して勉強会は生産者の連携を強化した点は良かった。また、情報共有化した点も良かった。しかし、検討課題2でも記載した酷暑の対策が難点であるが、突破口を見出していきたい。 ・勉強会や講習会の開催はとても良い。参加したくても参加できない方のために、個々の作業スケジュールに合わせた補完指導も検討してほしい。 ・いちご通信配布、講習会の開催内容は高く評価できる。作の振り返りも改善点を見つけやすいので有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の栽培技術向上のための巡回指導や生産者間の交流に係る関係者との調整等を継続的に実施いたします。 ・グループワーク等の新たな取組は大変好評であったことから次年度以降の講習会等でも継続して実施いたします。 ・気候変動については、次年度のプロジェクト課題として取り組む計画としております。 ・新規就農者同士の繋がりに対するニーズが高いことから積極的に支援してまいります。 ・環境制御技術の習得はいちごの安定生産に不可欠な技術と考え、習熟度に応じた情報提供を心がけてまいります。夜冷短日処理は販売単価の高い年内収量を確保するために重要な技術であり、育苗時の作業スケジュール管理が的確になされるように指導してまいります。 ・当産地の新規・若手生産者の就農が多い現状を踏まえ、丁寧な支援活動を実施してまいります。 ・生産者の連携の強化がより一層進むように支援いたします。気候変動対策については、次年度のプロジェクト課題として取り組む計画としております。 ・当所で作成・配布しているいちご通信等を通じて、栽培管理のポイントや講習会等の内容を広く周知してまいります。また、必要に応じ、現地巡回等による指導を実施してまいります。
検討課題4 （さつまいもの産地育成）について	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・当市においても、さつまいもの増産を目指す経営体があることから、成果の共有は重要になってくるものと思う。ほ場の水害対策も課題になってくるものと思っている。 ・課題を見つけ、目標以上の成果が得られましたので、良い活動だと思う。 ・大規模法人は、栽培管理が隅々まで行き届かなくなっており、気づきの機会やサポートが必要となっている。 ・産地の土壌病害により需要が増えたこともあり「さつまいも」の産地育成が地域の新たな活力につながると期待す 	<ul style="list-style-type: none"> ・当県南地域は県内では比較的温暖なことから、さつまいもの作付けに適していると考えており、新たに作成した栽培マニュアル等に基づいた技術支援を実施してまいります。特に水田転作の場合には、カットドレーンやサブソイラー等による排水対策や高畝栽培等が重要になること等を指導してまいります。 ・大規模法人の中には、大面積の作付けに対応した作業体系が不十分で安定的に収量が得られていない課題もあることから、効率的な技術体系の構築等を指導してまいり

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>る。貯蔵時の腐敗対策などにおいては、改善点などの栽培技術向上ができたことも高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量向上と適切な人員の作業計画の適正化、貯蔵管理の徹底は適切な視点と言える。 ・収量が伸びない原因の究明と対策の方針が明確になったことは良い点である。 ・過剰な人員を適正な作業計画を示し、且つ現状の課題を情報共有することで従事者が何をすべきかが見出すきっかけとなるのではないかと。 ・どの作物も適期に適作業を実施することが大事である。せっかく収穫した「さつまいも」をよい状態で出荷できるようしっかり指導してほしい。 ・来年度に向けて収量以外の作業工程数やロス率などの数値目標も欲しい 	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもの需要は高まっており、作付拡大に向けた取組支援を継続的に実施してまいります。また、貯蔵時の腐敗対策については、引き続き他地域の先進事例等の情報提供も踏まえて対応してまいります。 ・近年は気候変動により高温乾燥となることも多く、より一層育苗や定植後の活着等が重要となってきております。生産者と課題を共有した上で、指導をしてまいります。 ・大規模露地園芸では、営農に当たり作業従事者の労働時間が多大となる傾向があることから、適正に労働時間を管理出来るように作業体系の見直し等を支援してまいります。 ・大面積の作付けで収穫作業が遅延する事例が見られており、適時に作業が完了するように改めて要因解析を生産者とともに実施し、改善を指導してまいります。 ・労働時間や収穫物の出荷ロス率等については、随時聞き取りを実施しておりますので、生産者に対しそれらを考慮した作業体系となるように指導してまいります。
令和6年度普及指導計画（案）について	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方針は、地域課題を適切に捉え支援されるものと期待します。共有できる情報については、積極的な提供をお願いします。 ・気象変動に対応した対策については、全生産者に求められていますので、良い活動だと思う。 ・新規プロジェクト2件を含む課題及び支援活動は明確に整理されており現状に即した計画となっている。 ・課題数は適切であり、今後に繋がる内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や農業者が抱えている課題の把握に努めながら、関係機関と連携を図り、計画作成を行ってまいります。 ・プロジェクト活動の状況や得られた成果は、講習会、普及センターだより、ホームページなどを活用し、情報発信に努めてまいります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・県重点施策「いちご100億円産地育成」の具体策が見えてこない。 ・関係機関としても、情報を共有し連携強化を図り活動支援に取り組めます。 ・農業経営者は孤独でそれぞれに違った悩みを抱えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県重点施策の達成に向けた取組につきましては、担当課と調整し、関連する市町及び関係機関に情報共有を行ってまいります。 ・管内関係機関との情報共有の場づくりを来年度も行なってまいりますので、御協力をお願いいたします。 ・御助言ありがとうございます。普及センター職員全員で多く

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		多様な担い手に声をかけ、コミュニケーションをとっていただきたい。	の農業経営者に足を運び、御意見や御要望の把握に努め、普及活動に活かしてまいります。